

| 会 議 録 | | | | |
|----------------------------|----------------|--|--------|-------------------|
| 令和2年度第2回 生活支援事業協議体 | 日 時 | 令和2年9月25日(金) 14時00分～15時20分 | 場 所 | 市役所第二庁舎 801会議室 |
| 事務局 | 小金井市福祉保健部介護福祉課 | | | |
| 出席者 | 委 員 | 高良委員長（法政大学） 小早川委員（社会福祉協議会） 阿久津委員（社会福祉協議会） 山根委員（介護事業者連絡会） 尾崎委員（民生委員児童委員協議会） 井上委員（ボランティア団体代表） 村越委員（町会・自治会） | | |
| | 事務局 | 第2層コーディネーター 金子氏（小金井ひがし地域包括支援センター） 雨宮氏（小金井にし地域包括支援センター） 小野氏（小金井きた地域包括支援センター） 吉田氏（小金井みなみ地域包括支援センター） 第1層コーディネーター 菊地原（小金井市 介護福祉課） 平岡、濱松、田村（介護福祉課） | | |
| 傍聴の可否 | ◎可 ・ 一部不可 ・ 不可 | | 傍聴者数 | |
| 傍聴不可・一部不可の場合の理由 | | | | |
| 次 第 | | | | |
| 1 開会 | | | | |
| 2 議題 | | | | |
| （1）報告事項 | | | | |
| ① 前回協議体からの進捗等 | | | | |
| ② 令和2年6月から7月分生活支援連絡会報告 | | | | |
| ③ 生活支援コーディネーター活動報告（4月から7月） | | | | |
| ④ 令和2年度各地域包括支援センター活動進捗報告 | | | | |
| ⑤ 令和2年度版応援マップ作製について | | | | |
| （2）検討事項 | | | | |
| 「通いの場の減少」について | | | | |
| 3 その他 | | | | |

次回協議体の開催予定

4 閉会

1 開会

(田村氏)

事務局より事務連絡。

I Cレコーダーの録音方式、新型コロナウイルス感染拡大防止のため短い時間での開催を予定していること、新委員紹介がされた。

(村越委員)

村越委員挨拶

(平岡高齢福祉担当課長)

平岡高齢福祉担当課長挨拶

2 議題

(1) 報告事項

- ① 前回協議体からの進捗等
- ② 令和2年6月から7月分生活支援連絡会報告
- ③ 生活支援コーディネーター活動報告(4月から7月)
- ④ 令和2年度各地域包括支援センター活動進捗報告
- ⑤ 令和2年度版応援マップ作製について

(田村氏)

①～④について、書面にて報告された。

⑤令和2年度版応援マップは今年度中に作製予定で進めている。

(高良委員長)

この応援マップは今年度中に作製で、配付が来年度か。

(濱松包括支援係長)

今年度中に配付したいがコロナの影響で活動休止をしているところの情報をどうするか今精査している。作ることを前提に、締切り等を考慮しながらどうするかというのを考えるほかないかなとは思っている。

(高良委員長)

予算としては今年度中に使わない場合は次年度に移動できるのか。

(濱松包括支援係長)

基本的には単年度予算になる。改めて翌年度に要求して予算をつけるという考え方になる。

(高良委員長)

マップはあったほうがいいのか。

(井上委員)

今は活動休止だけれどもという連絡先を伺うなどできる。載せることでいいのでは。

(高良委員長)

予定どおり、できる限り正確な情報でマップを作り、来年度、またブックを作成されてということをお願いしたい。

(2) 検討事項

「通いの場の減少」について

(菊地原介護福祉課職員)

通いの場の減少について説明。

新たな地域資源（場所）の発掘と、今までどおりの活動ができないのでどういう方法があるのかの2つを検討したい。

(高良委員長)

前回、おはがきとかお手紙、お電話など出たがそれ以外にまた新たなものをということか。

(菊地原介護福祉課職員)

通いの場自体がもっと必要だということでは感じている。さくら体操という通いの場に通っていた人が分かっているだけで44人も宙に浮いている状態で、そこに重点を置きたい。会場が使えないならば、どういった場所が地域にあるのか話をしたい。

(井上委員)

会場の問題で来年1月から再開する予定。利用者さんにボランティアで手分けして、一人一人にこの連絡をし、現状を電話で聞いている。

(高良委員長)

どこかしら会場があればいつでも始めたいという気持ちなのか。

(井上委員)

私たちの場合、二、三の場所が駄目だったので一斉にやめた。

(高良委員長)

学校とか病院とか、今まで活動場所が使えなくなっているという課題は、何らかの形でつながられるような方法を探したり、運動ができるような、機能低下というものを防ぐような方法を考えると同時に、歩いていける距離に通いの場がない、少ないではないかというのは、コロナにおいても、日頃からでも多分感じている課題なのだろうと思う。

(山根委員)

通いの場の減少というのは新型コロナによるものの原因が大きいのではないかな。活動の場が増えたとしてもそこに集まるかといったらそうではないのかなという認識をしている。

(高良委員長)

コロナの状況であったとしても、ウィズコロナでニーズをちゃんと充足できるようなものをつくっていかなければいけない。そういった中で活用できる場所、こういうところがあるのではないかというヒントなり提案はあるか。

(尾崎委員)

さくら体操は、今まで野外とかで実施されたことはあるか。

このコロナ中、小金井公園のラジオ体操が非常に多くなっている。

新しいところを発掘したとしても、そこに関わる方がやはり制限があると思う。今までのところを継続可能な支援として定着させていく必要がある。

(井上委員)

東地区の活動団体が、感染予防を徹底に行い活動を再開している。徹底すればやれないことはないと思う。

(阿久津委員)

ほかの自治体の事例だが、今、コロナ禍で病院に来る人が非常に少なく病院が非常に困っている状況があり、病院側は居場所ということで場所を提供することをしてきた。参加する人、しない人は、二つ分かれるので、それで来てもいいという方が来ている、来ない人は来ない。

(高良委員長)

小金井市でそのようなことに興味がありそうな病院はどこかあるか。

(山根委員)

クラスターが発生したときに最終的には責任論になってしまうと思う。

(阿久津委員)

子供の居場所をサロンでいっぱいやっているが、コロナ禍でもずっとやっていた。今後これは必須ではないかなと思ったのは、私たち運営側は関係ありませんという免責事項をかわしていた。

(高良委員長)

お互い納得して始めるほうがいい。

会場も、公的などところは自分のところだけの考え方では難しく、それぞれ代表の方の思いもある。やってもいいと思われるもところをお願いをするしか、難しいのではないか。

ほかのつながるための方法で、Z o o mやオンラインをやるための講習みたいなの
は行ったか。

(小野氏)

おしゃべりの会からZ o o mの講習をやってほしいという声がある。今後話を詰めて、Z o o mはこういうものというところから、まずは地域の高齢者の方々に知ってもらおうと思っている。一回行って見て、実際やれるかどうかを検討した上で、2回目、開催するようであれば、今度は実際に皆さん、登録のところからやってみましようかという講習会をしたいと思っている。

(高良委員長)

Z o o mをやりたいという方たちは、高齢者の方でかなり増えているのではない
か。何らかの形での講習会プラスちょっとずつ一緒になってできるような方、伴走し
てくれるような方の養成ができるといい。

よくわかる高齢者が別の高齢者に教えたりする関係性ができるとやりがいにもつ
ながると思う。興味がない方、興味はあるが、経済的な要因やW i - F i環境が整わ
ないなどもある。

直接会うことによさと何かあったときにも外に出なくても誰かしらとつながって
いられる状況をつくっていくために、この状況だからこそ興味があるときにやるとい
うことも一つ必要かなとも思う。

その際に、学生との交流など、多世代交流が一つの機会とかツールにしてしまう
という考え方も必要ではないか。

(小野氏)

Z o o mを皆さんで体験した上で、やはりZ o o mは私たちには使えないというふ
うに高齢者の方々が思った場合、Z o o mが使えないようであればどうやって皆さん
が集まることができますかというところまで話を広げて話をしたい。

(高良委員長)

自身でこんな方法もあるかもねと言っていたのが一番いい。新たな会場をと
いうのは難しいが、屋外でやっていくということ、別の方法でということを知して
いくことはできるのではないか。

何かあっても、これは免責だからとお互いに合意しながらやっていくということが
必要ではないか、運営者側と参加者側にも周知されることによって、どうしようかな
と思われている方たちが再び活動を開始されることのできるのではないかというこ

とも明らかになった。

また、つながるための方法として、いろいろな形でまずは試し、またその進捗状況等を共有し、それによってはまた別の地域でも必要に応じてやっていくことも一つの方法ではないか。

(小早川委員)

さくら体操の人たちは、体操がメインなのか、人と会ってしゃべりたいのがメインなのか。

(濱松包括支援係長)

基本的には両方考えられる。さくら体操だけをやっているわけではなくて、さくら体操をした後にレクリエーションの時間がある。参加者によっては体操だけで帰る方、逆に、レクも楽しみにしている方もいる。運動も副次的な目的であって、いつも来ている人と顔を合わせるのを楽しみにしている方が多いという印象がある。

(井上委員)

みんなとやって、休憩のときにはお茶を飲んで、それが楽しくて行っている。ビデオを買って、お家で見てやっても楽しいことはない。おしゃべりしたりも意味があることだと思う。

(尾崎委員)

現状をどう克服するかということが一番に考えないと、なかなか次の段階を考えるのは難しい。いろいろな知恵を出してやって、少しずつでもやってみないと次に行かない。その辺を主催者側の方と一步をどのタイミングで踏み出すかということをし少し意見交換したりすることは、ちょっとプラスになるかと思う。

(高良委員長)

主催者側の方たちが、ちょっと迷っていたり悩んでいるところに、生活支援コーディネーターがサポートし、一緒になって考えながらまた再開ということもできやすくなるのではないか。

3 その他

(濱松包括支援係長)

新しい計画の施行時期が令和3年度から全国一律に来年度から始まる。

介護保険の策定の委員の中で、このコロナの状況の中で、高齢者の外出、介護予防について、市としてどうしていくのかと意見がある。

今までどおりの活動ができないというのを前提にして、新しい方法のオンライン、Zoomの活用であるとか、活動の方法を変えて、今までの見守りであるとか、つながりを保とうとするという活動は、このコロナの中で増えつつあると思っている。

来期の計画の中では、市としてやっていくべきこととして、コーディネーターを通

じて、活動の情報を周知をしていく。応援ブックや応援マップを使って、主催者同士の横のつながり、情報共有を我々が後ろ盾となって、この状況の中でもやっていける活動のサポートをしていく。そのような内容を生活支援事業の中に盛り込むような、コーディネーターの活動の一部としてもそういったことが必要になってくることを盛り込む予定にしている。

このコロナの状況において、通いの場の活動であるとか、そういった中での工夫というのは継続して協議していただくような内容になってくる。

3 その他

次回協議体の開催予定

(田村氏)

今回は令和3年1月28日木曜日、午後2時から4時、会場は前原暫定集会施設を予定している。

4 閉会